

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
松田町	寄地区 （宇津茂・中山・土佐原、弥勒寺、 萱沼、大寺宮地、虫沢田代）	令和4年3月22日	年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	126.0 h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	69.4 h a
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	33.9 h a
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	18.9 h a
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3.8 h a
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.6 h a
（備考）	

2 対象地区の課題

<p>多くの農地が小さく、斜面にあることから、農業にとって条件の良い土地とは言えず、貸し出しを希望しても速やかに受け手に集約されていくことは困難な状況である。</p> <p>また、地区の栽培の中核である茶にあつては、近年、買取価格が低いまま推移していることで農業者の耕作意欲が著しく低下しており、製茶工場のあり方なども含めて、大きな転換点を迎えている。</p>
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

宇津茂・中山・土佐原については、一部に茶栽培の参入が見られることから、中心経営体も含めた持続可能な農業経営体への集積・集約化を進める。
弥勒寺については、規模拡大が可能な中心経営体を中心に、集積・集約化を進める。
萱沼については、一部に茶栽培の参入が見られることから、中心経営体も含めた持続可能な農業経営体への集積・集約化を進める。
大寺宮地については、担い手不足を解消するために人材育成や新規就農者の受入を進め、集積・集約化を図る。
虫沢田代については、担い手不足を解消するために人材育成や新規就農者の受入を進め、集積・集約化を図る。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法	■■■■■	茶	0.5 ha	茶	2.0 ha	中山
認農法	■■■■■■■■■	野菜、果樹	0.4 ha	野菜、果樹	0.4 ha	弥勒寺
認就	■■■■■	水稲、茶	1.4 ha	水稲、茶	2.0 ha	弥勒寺
	■■■■■	茶	0.5 ha	茶	1.0 ha	萱沼、中山
計	4人		2.8 ha		5.4 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

（参考）農地の貸付け等の意向（任意記載事項）

	農地の所在（地番）	貸付け等の区分（㎡）		
		貸付け	作業委託	売渡
		262970.4		
	計			